

女川原子力発電所における平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震による津波の調査結果の概要

1. 津波の調査結果

(1) 潮位観測結果

潮位計で観測された津波の高さはO. P. +約13m^{※1}であった。(図-1)

2011年3月11日潮位記録(女川)

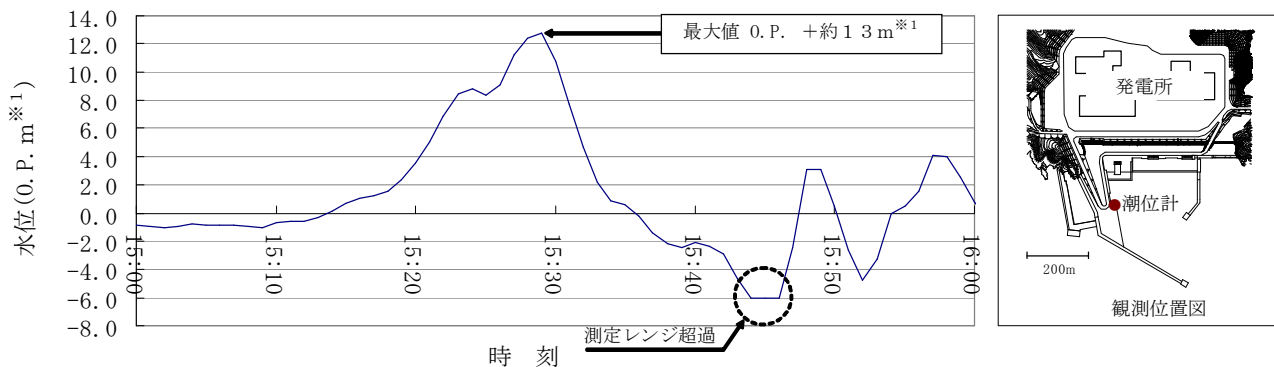


図-1 潮位計により観測された水位時刻歴

(2) 痕跡調査結果

痕跡調査の結果、敷地海側の一部に海水の浸入痕を確認した。(図-2)

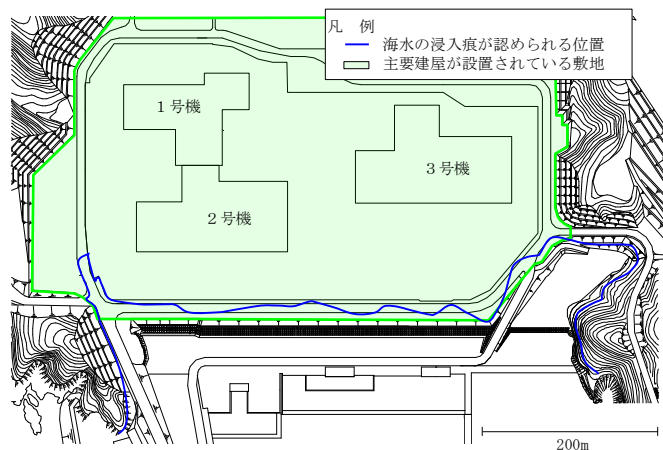


図-2 痕跡調査結果

2. まとめ

女川原子力発電所の潮位計で観測された津波の高さは、O. P. +約13m^{※1}であり、敷地高さ(O. P. +約13.8m^{※1})を超えていないことを確認した。なお、敷地海側の一部に海水の浸入痕が認められたが、主要な建屋には到達していない。(図-3)

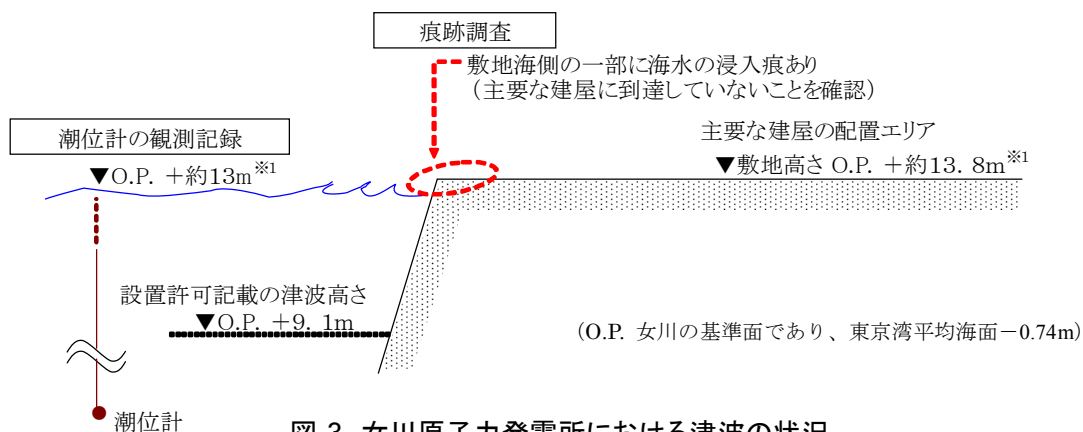


図-3 女川原子力発電所における津波の状況

3. 今後の対応

今後、発電所周辺の痕跡調査および敷地内の測量等を実施し、地殻変動の影響等を評価するとともに、発電所の信頼性を一層向上させるための津波対策に取り組んでいく。

なお、津波の影響による屋外重油タンクの倒壊および2号機補機冷却系熱交換器室への海水の浸入については、現在、詳細調査中である。

以上

※1 今回の地震発生後に公表された国土地理院による女川原子力発電所周辺の地殻変動(一約1m:速報値)を考慮した値。女川原子力発電所原子炉設置許可申請書記載の敷地高さはO.P.+14.8mであるが、地殻変動を考慮しO.P.+約13.8mとした。